



七狩長田貫神社のクス  
根は境内下の歩道付近まではみ出しており  
幹周りと根周りの判別が難しい

これら指定文化財の名木以外にも、瀬戸山神社(上蔵川町)・高千穂神社(花岡町)のシイが名木として知られています。  
なお、名木として知られた八坂神社(輝北町上引)のスギ、月読神社(串良町有里)のナギ、吾平町神野のイヌマキは近年倒木し、残念ながら今はその姿を見ることができません。

**七狩長田貫神社のクス**  
田崎町の七狩長田貫神社の境内にあるクスは、幹回り約10m、樹高25m。推定樹齢は900年近くとされています。生育の状態で良く、枝も四方に張って力強く、威容を誇っています。道路側から眺めても圧巻です。

**大木は人を魅了する**  
大隅地域振興局林務水産課林務第一係長で森林総合監理土の下園寿秋さんに、樹木保護の注視点や、木と人との関わりなどについて伺いました。  
「樹木の根は、最先端の葉っぱがある所の真下ぐらまで地下に広がっていると言われていたため、名木と言われるような背の高い樹木は、根も広く張っています。これは、新しい根の上にある土が人に踏み固められ、根が痛みやすいとも言えます。新しい根は水・栄養を最も吸収する場所。根の周囲を守る事が大事です。また台風や落雷等にも注意が必要です。中心部が空洞の大木をよく見かけますが、樹木は大きくなれば

ば光合成だけでは生きられないため、中心を腐らせながら外側に栄養を送って生き長らえるからだと言われています。  
大木は人の生活に役に立っていた木が、いつしか役目を終えて、そのまま大きくなったとも言えます。イヌマキはイチヨウ同様、実が食べられます。クスからは殺虫成分のある樟脳が採取されていました。大木は長い間、地域とつながり、歴史をつむいできたシンボルなのです。長く育った木は、これからも人々を魅了し、エネルギーを与えてくれる存在だと思います。」



大隅地域振興局  
林務水産課  
下園 寿秋 さん



1 事代主神社のクス  
2 十五社神社のイチヨウ  
3 北原墓地のイチヨウ  
4 山宮神社境内のナギ

まちのシンボルだった「大杉」

かつて輝北町上引の中心部、八坂神社の境内に、「大杉」と呼ばれるスギがありました。幹周り6.5m、樹高20mの樹齢約800年と言われた大木は、まちのシンボルとして親しまれ、また国道504号沿いにあったことから、車道を走る町外の人にも圧倒的な存在感を示していました。  
長い間、台風や落雷に耐え、度重なる養生作業を行い保護されてきましたが、平成16年8月の大型台風により倒木の憂き目に遭い、今は跡形もありません。



子どもたちにも親しまれた大杉  
(昭和50年代)



およそ800年の間、周辺一帯の変化の過程を静かに見守ってきた大杉

**事代主神社のクス**  
串良町岡崎諏訪下の事代主神社の境内にあるクスは、幹回り5.8mで、樹高は21mを越す大木。樹齢は450年以上と推定されています。  
**十五社神社のイチヨウ**  
串良町有里中郷の十五社神社の境内にあるイチヨウは、幹回り5.9mで、樹高20.5m以上。樹齢は260年以上と推定されています。秋には多くのギンナンが実り、地域住民に親しまれています。  
**北原墓地のイチヨウ**  
串良町細山田平瀬の北原墓地にあるイチヨウは、幹回りは3.6mで、樹高18m以上。樹齢は700年以上と推定されています。イチヨウの枝の下には、同じく指定文化財に指定されている逆修古石塔群が静かに並んでいます。  
**山宮神社のナギ**  
串良町細山田堂園の山宮神社の境内にあるナギは、幹回り2.5mで、樹高20m以上。樹齢は300年以上と推定されています。

**昔も今も愛されるクス**  
今から50年程前の話ですが、子どもの頃は遊び場が無かったので、近所の事代主神社のクスに木登りして遊ぶこともしばしばでした。  
昔はこのクスの隣に樅の木があったんです。大木であるクスには直接登れなかったため、まずその樅に登って、そこからクスの幹の分かれ目に飛び乗って、友だちと遊んでいたことを思い出します。  
当時から既に大木でしたが、その頃のクスは、こんなに大きくなかったような印象があります。幹周りは子どもが三人で手をつないで届くくらいだった記憶がありますが、今では大人4人でも届かないくらいですね。  
まだまだ木は元気だと思えます。今も昔も地域に愛されている事代主神社のクス。これからも長く地域のシンボルであってほしいと思います。



さちお  
下村 幸男 さん  
(串良町岡崎)

INTERVIEW